

「認知症デイ」の強みを地域で発揮するために

平成 29 年度老健事業

「認知症対応型通所介護事業所の適正な整備及び専門的な
認知症ケアに関する調査研究」 報告概要

平成 29 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

「認知症対応型通所介護事業所の適正な整備及び専門的な認知症ケアに関する調査研究」

検討委員会

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

平成 29 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症対応型通所介護事業所の適正な整備及び専門的な認知症ケアに関する調査研究」 報告概要

認知症介護研究・研修東京センターでは、平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究」の訪問調査から見てきた、認知症の人のデイサービスにおける支援で力を入れている 4 つのポイント「①アセスメントと計画に基づく日々の支援 ②介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携 ③介護者支援 ④職員配置と情報共有」を手がかりに、平成 29 年度は、認知症対応型通所介護(以下、認知症デイ)と平成 28 年 4 月に創設された地域密着型通所介護(以下、地域密着デイ)の比較調査を行いました。また、認知症の人のデイサービス利用の提案の局面で欠かせない介護支援専門員のデイサービス選択に資する意識を伺うための調査を行いました。

その結果、認知症デイは地域密着デイと比べて、他事業所では十分にケアができなかった認知症の重度な人を受け入れるなど、在宅生活を支える上で非常に重要な役割を果たしていることを改めて確認することができました。また、認知機能に対応したアクティビティや役割を持って取組める活動を認知症の初期から注力して取組んでいること、その他にも他事業所や家族との情報共有、家族への支援に力を入れていることが明らかになりました。その内容は、介護支援専門員が認知症デイに期待する内容とも合致していました。一方、地域住民や専門職も含め、認知症デイについてあまり理解されておらず、本人や家族においては認知症デイを利用することに対し、抵抗を示す人がいることも浮き彫りになりました。

介護支援専門員は、認知症デイを選択する際に重視する点として、信頼できる事業所職員の有無を一番に挙げています。その信頼は、提供しているサービス内容や十分な家族への支援、事業所との情報共有を通して育まれていることも示唆されました。

介護支援専門員と共に認知症の人とその家族を地域で支えることをけん引していく役割が認知症デイにあること、および、認知症デイで培われたノウハウが多くの認知症の人のケアに生かされ、認知症になっても暮らしやすい社会につながることが期待されます。

日々、認知症の人やその家族とともに試行錯誤しながら、より良い明日のために豊かな時間をつくり続けている認知症デイの職員・関係者の皆さまに感謝の気持ちをこめて、今後の認知症デイの普及について引き続き共に考えていきたいと思います。この報告書をお届けいたします。

参考にしていただけると幸いです。

平成 30 年 3 月

「認知症対応型通所介護事業所の適正な整備及び専門的なケアに関する調査研究事業」
事務局

研究報告の全文は、認知症介護研究・研修センター
ホームページよりご覧いただけます。 <https://www.dcnnet.gr.jp/>
 認知症介護情報ネットワーク
Dementia Care Information Network

1. 調査研究事業の概要

1) 背景

在宅生活を営む認知症の人は増加するが、有効に支えるための認知症デイの利用は低位となっている。
事業所数と受給者数の推移は以下の通りである。

認知症介護研究・研修東京センター

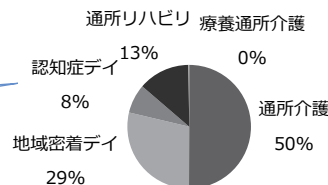
通所サービス事業所数（全国）

事業所	平成26年度 (10月1日統計)	平成27年度 (10月1日統計)	平成29年4月19日 (ワムネット検索)
認知症デイ	4, 253	4, 308	4, 199
通所介護	41, 600	43, 406	27, 619
地域密着デイ	—	—	15, 824
合計	45, 853	47, 714	47, 642

- 平成28年度より新設された地域密着デイは、これまでの通所介護あるいは認知症デイから移行して運営されている事業所も数多くあるという可能性が読みとれる

- 認知症デイの全国平均 8%
都道府県別の設置割合 4%～14%
(参考: 福井県 14% 東京都 10%)

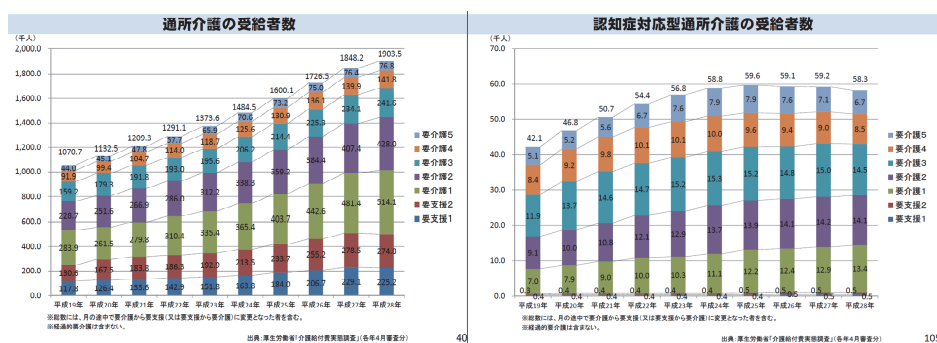
通所サービスの全国割合
(平成29年4月19日ワムネット検索)



認知症介護研究・研修東京センター

社保審一介護給付費分科会第137回(H29.4.26) 資料2より

受給者数の推移の比較



- (認知症デイの受給は低位) 通所介護は年々受給者が増えているが、認知症デイは平成25年までは増加傾向であったものの、以後横ばいとなり、平成28年には減少している
- (認知症デイは重度者が多い) 要介護3以上の利用者の割合が通所介護では24%に対し認知症デイでは51%と全体に占める割合として高くなっている

以上の現状をふまえ、認知症デイを必要とする人が確実にサービスを利用できるようにする必要がある。

2) 目的

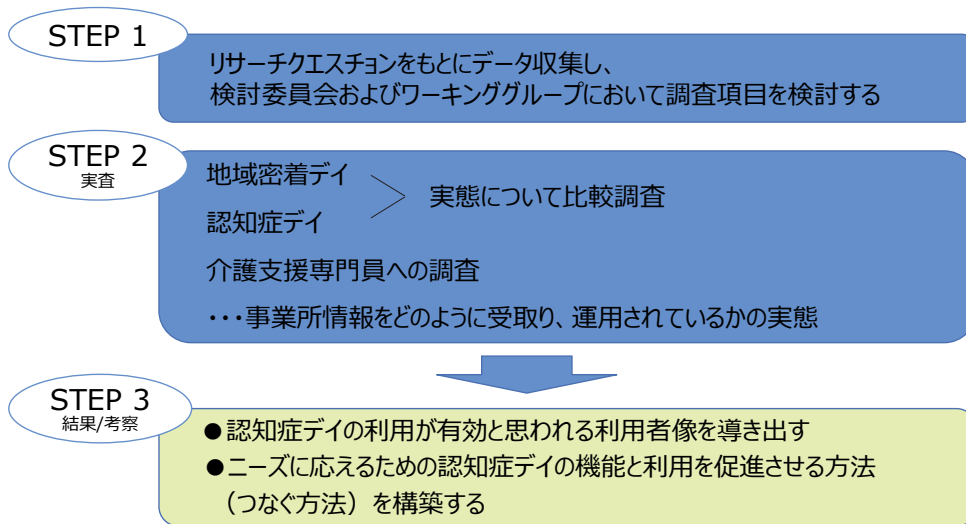
地域密着デイのサービス内容との比較検証、介護支援専門員のサービス選択実態等について現状を分析し、課題と解決策を明らかにすることにより、利用者・家族や支援する介護支援専門員等の適切な選択に資するよう、認知症デイの役割を明確化し、今後のサービス提供のあり方等について提示する。

2. 研究方法

以下の通り計画した。

認知症介護研究・研修東京センター

研究の進め方



1) 調査対象

● 通所介護事業所調査

認知症デイと地域密着デイの設置割合が全国平均よりも高い 12 都道府県（北海道、東京、神奈川県、長野、静岡、兵庫、鳥取、島根、山口、愛媛、長崎、熊本）に所在する認知症デイ事業所および地域密着デイ事業所の職員

認知症デイ 1,000 事業所、地域密着デイ 1,000 事業所（無作為抽出）

● 介護支援専門員調査

通所介護事業所調査において抽出した認知症デイ事業所が置かれた市区町村に所在する居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員

居宅介護支援事業所 1,000 事業所（無作為抽出）

2) 調査方法

郵送による質問紙調査

3) 主な調査項目

- 通所事業所調査

事業所の基本情報／事業所の運営状況／利用者の状況／職員について／契約の開始・終了について／認知症の人へのサービス実施状況／認知症の人の家族支援（事業所としての工夫）／認知症の人と地域をつなぐ支援（事業所としての働きかけ）

- 介護支援専門員調査

回答者の経験年数やプラン件数／回答者の所属事業所について／通所介護サービスの選択情報／通所介護サービスを紹介する上で実感していること

4) 調査時期

平成 29 年 10 月 3 日～10 月 31 日（11 月 24 日まで延長）

5) 倫理的配慮

無記名式の調査とした。本調査のデータは統計学的に処理を行い、調査目的以外に使用することがないこと、報告書では、回答いただいた個人、事業所が特定できないように配慮した。回答内容については、研究担当者および分担研究者以外に見られたり流出したりすることがないように、鍵付きキャビネットでの管理を徹底し、研究期間終了後の平成 30 年 5 月末を目途に溶解処理すること。その他、当センター倫理審査規定に則り適切に取扱うことを調査説明書に明示して実施した。

3. 調査結果

1) 回収率

全体で 1361 部が回収され、全体的な回収率は 45.4%であった。

事業休止や事業廃止、実績のないもの、不明回答により無効となった票を除いた結果、下記について集計分析の対象とした。

- 認知症デイ 353 部
- 地域密着デイ 387 部
- 介護支援専門員 473 部

2) 結果と考察

以下、4 つの論点をふまえ、認知症デイの強みと課題を提示する。

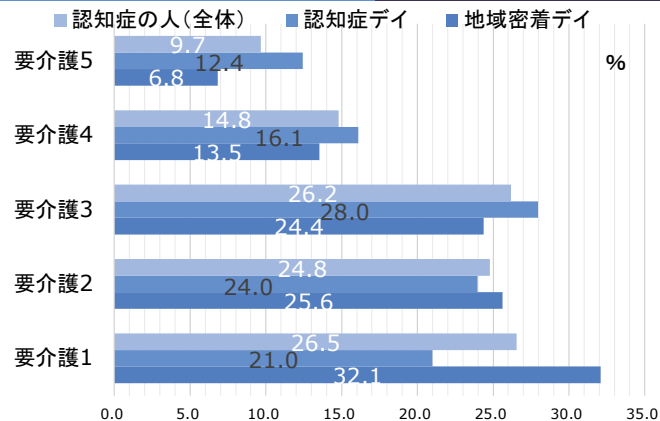
論点1

認知症デイ利用者の特徴

- 認知症デイは地域密着デイに比較し、重度の認知症の人や、要介護度の高い利用者が多い
- 他事業の利用ができなかった利用者を受け入れるなどのケアが難しい認知症の人の地域の受け皿になっている

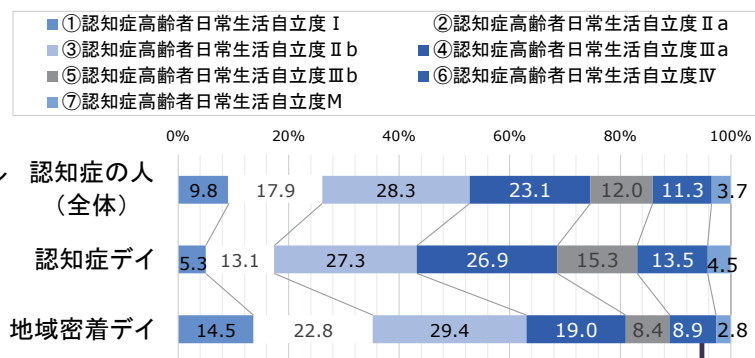
(要介護度)

認知症のある要介護3以上の人の割合については、認知症デイ56.5%と地域密着デイ44.7%と認知症デイが上回っていた



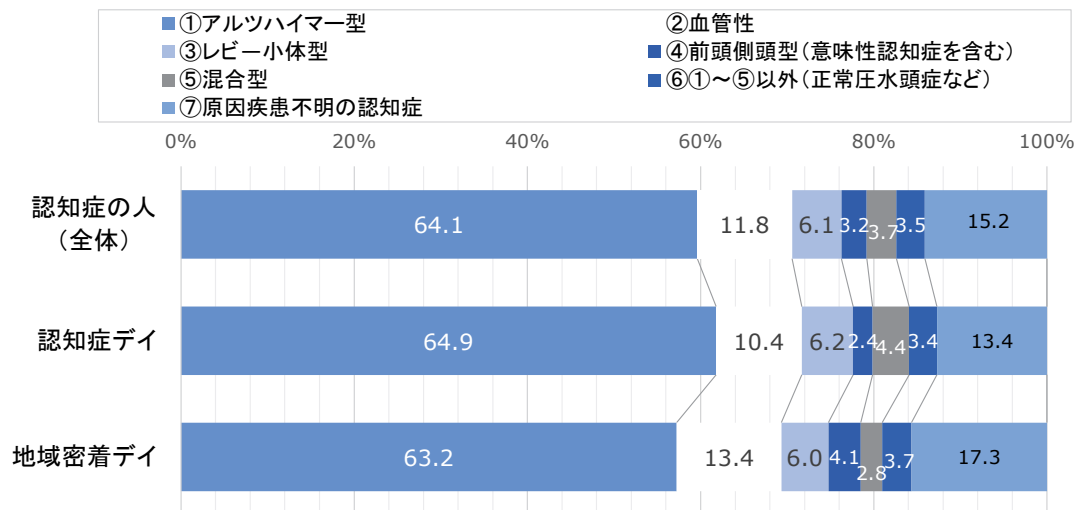
(認知症高齢者日常生活自立度)

Ⅲ a 以上の利用者は、認知症デイで57%と地域密着デイで37%と認知症デイが地域密着デイを上回っていた



(原因疾患別の人数)

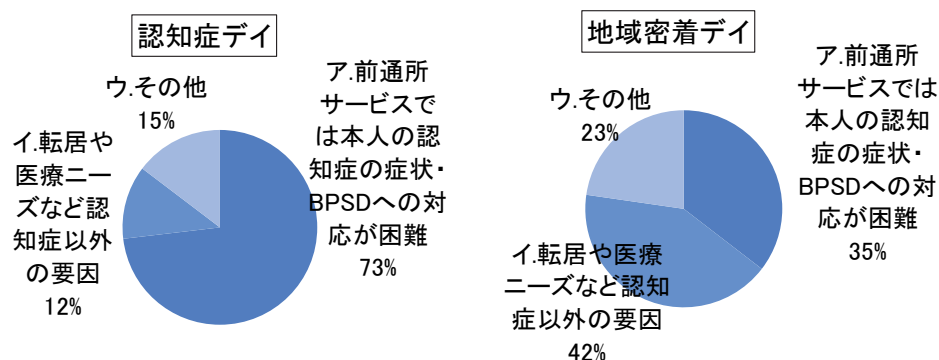
全体としてアルツハイマー型と診断されている利用者が約6割であった
地域密着デイにおいて原因疾患不明の認知症は17.8%と認知症デイ13.4%
に対し上回っていた



(新規利用者(平成29年4月1日～9月30日)の通所開始の経緯について)

他の通所サービスから転入した人の割合が、認知症デイでは39%に対し
地域密着デイでは31%であった

他の通所サービスからの転入の主な理由では、**認知症の症状やBPSDへの対応が困難**の割合は、**認知症デイが73%と地域密着デイの35%の倍以上であった**



(新規利用時、幻視・幻聴、妄想、昼夜逆転、暴言、介護行為への抵抗、徘徊、不潔行為、異食行動、性的問題行動のいずれかがあった人)

平均、認知症デイ3.66人、地域密着デイ2.17人であった

論点2

認知症デイのサービスの特徴

- 平均稼働率は、認知症デイ62.2% 地域密着デイ68.4%
- 特徴的なサービスは、認知機能にあわせたアクティビティの提供や、家族支援への取組、他事業所への情報提供など
 - 在宅生活を維持するために欠かせない家族介護支援、生活機能の維持・回復のみならず本人の役割や居場所づくりにもつながるアクティビティの提供、専門的な観点から認知症の人の生活の様子に関する情報を、介護支援専門員に提供するという重要な機能に力を入れている状況が地域密着デイとの比較により示唆された
- サービスの実施状況の各項目とも平均順位をみると、単独型は、併設型、共用型との比較において自己評価が高い
- 受け入れを断ったことが無い事業所は、有る事業所よりも自己評価が高い

(サービスの実施状況)

- 6領域33項目について、統計分析の結果により、以下の項目について有意差がみられ、サービスの実施状況についての自己評価が、認知症デイの方が地域密着デイよりも高いことが明らかになった
 - ・ 心身機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 認知機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 役割をもって取組めるアクティビティの提供
 - ・ 他事業所から認知症ケアについて相談を受ける
 - ・ 家族にデイでの様子を伝える
 - ・ 家族のニーズに関する情報収集
 - ・ 利用者に合わせた送迎方法の工夫
 - ・ 家族の認知症の人に対する受容につながる働きかけ
 - ・ 家族へ認知症の症状への対応方法を助言

（サービスの実施状況）

- 6領域33項目について、認知症デイの3運営形態による有意差
単独型（n=183）－併設型（n=131）－共用型（n=38）
- 自己評価が単独型の方が併設型よりも高かった項目
 - ・ 役割をもって取組めるアクティビティの提供
 - ・ 在宅生活維持に関する事業所内での検討
- 自己評価が単独型の方が共用型および併設型より高かった項目
 - ・ 安心できる言葉かけ
 - ・ 家族の認知症の人に対する受容につながる働きかけ
 - ・ 家族へ認知症の症状への対応方法を助言

（サービスの実施状況）

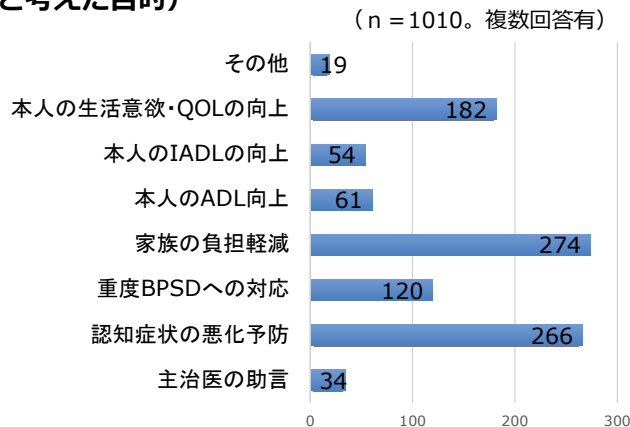
- 認知症の人の利用申し込みに対して、利用定員超過以外の理由で受け入れを断ったことの有無による群間比較を行った結果、以下の項目に有意な差がみられ、受け入れを断ることの無い認知症デイの方が断ったことの有る認知症デイよりも自己評価が高いことが明らかになった
 - ・ 気分によって過ごす場所を選択できる環境の整備
- 認知症が軽度の段階から特に力を入れて実施しているサービス内容
認知症が軽度の段階から特に力を入れているサービス内容（1位から5位の順位付け）について統計分析を行った結果、以下の項目について認知症デイが地域密着デイと比較し、軽度の段階から特に力を入れていることが明らかになった
 - ・ サービス担当者会議の検討結果を事業所内で共有
 - ・ 認知機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 役割をもって取組めるアクティビティの提供

論点3

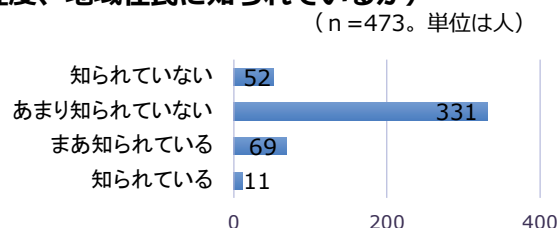
介護支援専門員の認知症デイに関する認識

- 認知症デイの特徴的なサービスと介護支援専門員が期待する認知症デイの機能には大きな違いがない
- サービス実施状況の全項目において、介護支援専門員の印象は認知症デイの自己評価を下回っている
 - 介護支援専門員の期待する水準に認知症デイのサービスの質が達していない場合がある。あるいは、提供されているサービスの質に関する介護支援専門員の認識が不足しているといったことが考えられる
- 家族も含め地域住民の認知症デイへの理解や専門的ケアの実態が行き届いていない

（介護支援専門員が認知症デイを紹介したいと考えた目的）



（認知症デイの役割・機能は、どの程度、地域住民に知られているか）

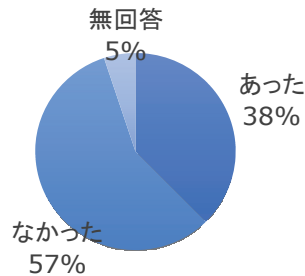


「その他」の場合、具体的内容（自由記述）

- 専門的ケア内容への期待
 - ・ 認知症の人は認知症デイの方が的確なサービスを行ってもらえるから
 - ・ 若年性認知症の対応に長けている
 - ・ 本人のADL、IADLの維持
 - ・ 本人が安心して過ごせる場所
 - ・ 意欲低下が顕著であり、少人数の個別的関わりが必要
- 認知症があり一般デイになじめなかった
 - ・ 他利用者とトラブル
 - ・ 個別ケアが行き届かなくなってきた
- 家族支援への期待
 - ・ 家族の対応への助言
 - ・ 家族の負担、心配の軽減
- 職員数が多い
- 意見書を参考にした
- 包括からの助言

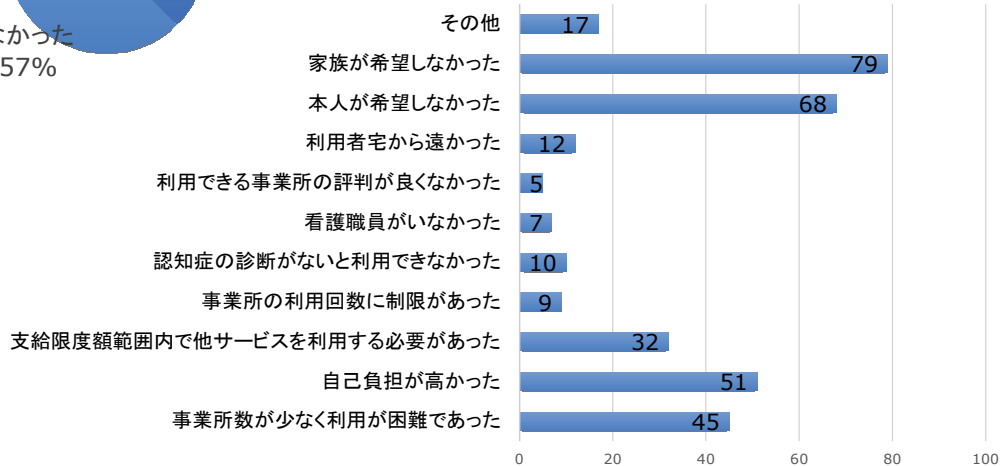
（認知症デイを紹介したいと考えたがケアプランに盛り込まなかったケース）

（n = 473）



「あった」とした場合、ケアプランに盛り込まなかった理由

（n = 340。複数回答有）



「本人が希望しなかった」とした場合、その理由（自由記述）

68名に記載いただいた

その内容は、下記の9カテゴリに分類できる

- 外出自体を希望しない 13件
- デイ自体の利用を希望しない 12件
- 現状のデイを希望 10件
- 「認知症」と名前がつくことに抵抗がある 8件
- 認知症の自覚がなく受け入れることができない 8件
- 周囲の様子に不満があった 4件
- 他者との交流を望まない 3件
- 認知症により判断ができなかった 2件
- その他
 - ・利用者の人数が少なく、不安になってしまった。
 - ・体力に自信がないと1年以上言い続けている。
 - ・他のデイサービスを希望したため。
 - ・男性で拒否が強く繋がらなかった。
 - ・友人と同じ普通のデイサービスを希望された。
 - ・アクティブなプランについて行けなかった。認知症状が重かった。
 - ・配偶者と一緒ではないと行動しないため（配偶者は認知症ではない）、利用に至らなかった。

「家族が希望しなかった」とした場合、その理由（自由記述）

75名に記載いただいた

その内容は、下記の16カテゴリに分類できる

- 「認知症」と名前がつくことに抵抗がある 11件
- 認知症の人と過ごすことを望まない 10件
- 他デイと比較し選ばれなかった 7件
- 現状のデイを希望 6件
- 本人が希望しない 6件
- 金銭面 4件
- 単価が高く利用回数が減ってしまう 3件
- 機能訓練の重視を希望 3件
- デイ自体の利用を希望しない 3件
- 他デイとの違いが分からなかった 3件
- まだ早いと思っている 3件
- 親には合わないと思った 2件
- 環境変化に対する心配 2件
- 認知症デイを利用するほどではないと思われた 2件
- 認知症を受け入れるのが難しい 2件

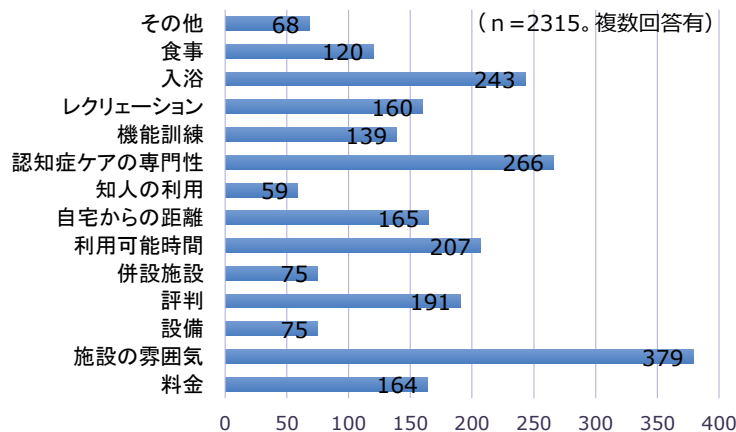
- その他
 - ・ 普通の家で、施設の設備が備わっていない等、大きく、きれいな施設を希望している。
 - ・ 家族のこだわりが強かった。
 - ・ 見学した際に、家族が施設の対応や関わり方に疑問（雰囲気）を感じてしまい、一般デイになった。
 - ・ 泊まりも含めたサービス利用を希望。
 - ・ 家族が認知症であることの認識がなかった。世間体を気にされた。
 - ・ 送迎時間（半日位の利用希望だったため）。
 - ・ 認知症の母が通うことで他の方に迷惑を掛けるという気持ちが強い。（独り言が多くなっていたため）。
 - ・ 知人に知られたくない。
 - ・ 近隣住民も利用しているデイサービスの利用を希望された。
 - ・ アクティブなプランについて行けなかった。認知症状が重かった。
 - ・ デイに対して信用していない。自宅で過ごす方が良いというこだわり。
 - ・ 雰囲気が暗いと言われた。
 - ・ 施設の雰囲気等、認知機能に対応したアクティビティの提供が望めないと考えたので。

論点4

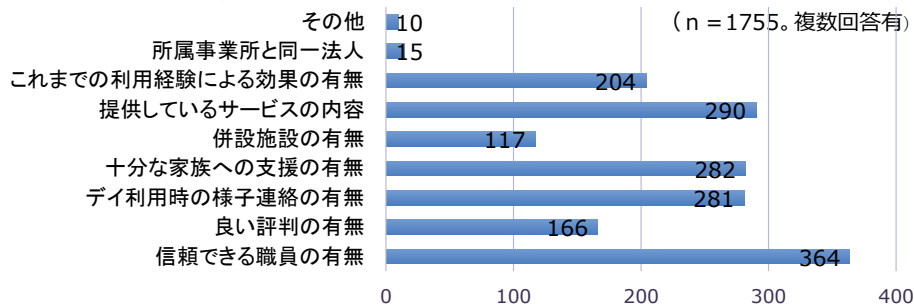
認知症デイが選択される際の要素

- 認知症の人や家族が通所サービスを選択する場合の選択の要素は、「施設の雰囲気」「認知症ケアの専門性」「入浴」の順が多い
- 介護支援専門員が個々の認知症デイを選択する際に重視する点は、「信頼できる職員の有無」「提供しているサービスの内容」「十分な家族への支援の有無」「デイ利用時の様子連絡の有無」の順が多い
 - 提供しているサービス内容はもちろんのこと家族への細やかな対応を介護支援専門員と共有するといった経験の蓄積が介護支援専門員と事業所の信頼構築につながることを示唆される

(認知症の人やその家族が通所サービスを選択する際の要素)



(介護支援専門員が個々の認知症デイを選択する際に重視する点)



まとめ

認知症デイの強みと課題

● 強み

- 重度の認知症の人等、行動・心理症状（BPSD）で他を断られた難しいケースにも対応
- 在宅生活の継続に重要な認知症ケアを実施している
 - ・ 心身機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 認知機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 役割をもって取組めるアクティビティの提供
 - ・ 他事業所から認知症ケアについて相談を受ける
 - ・ 家族にデイでの様子を伝える
 - ・ 家族のニーズに関する情報収集
 - ・ 利用者に合わせた送迎方法の工夫
 - ・ 家族が認知症の人を受容することにつながる働きかけ
 - ・ 家族に対して認知症の症状への対応方法を助言
- 介護支援専門員は、家族の負担軽減や認知症の悪化予防、本人の生活意欲、QOLの向上を目的に（期待）して認知症デイを紹介したいと考えている

- 認知症が軽度の段階から特に力を入れて実施していること
認知症デイでは…
 - ・ サービス担当者会議の検討結果を事業所内で共有
 - ・ 認知機能に対応したアクティビティの提供
 - ・ 役割をもって取組めるアクティビティの提供

- （地域密着デイでは…
- ・ 利用者間のコミュニケーションの機会をつくる
 - ・ 利用者間のトラブルを防ぐ対応
- ）

● 課題

- 地域や専門職にあまり知られていない
認知症に対する偏見の解消と共に軽度からの専門的なケアが必要であることを地域住民や専門職に十分発信する必要があるのではないか
- 認知症デイによる専門的ケア（均質なケア）が全国に安定提供されていない普及と同時に認知症デイの専門的ケアを標準化する必要があるのではないか

平成 29 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

認知症対応型通所介護事業所の適正な整備及び専門的な認知症ケアに関する調査研究事業

検討委員会委員

委 員	青木 智子	認知症専門デイサービス OASIS 管理者
委 員	石倉 智江	ケア・フレンズ居宅介護支援事業所 管理者
委員長	佐藤 信人	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長
委 員	杉原 優子	公益社団法人日本介護福祉士会 京都府介護福祉士会前会長
委 員	高島 梨菜	有限会社ふくろう介護サービス 管理者
委 員	能本 守康	一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事
委 員	花俣 ふみ代	公益社団法人認知症の人と家族の会 副代表理事
委 員	正立 斉	公益財団法人全国老人クラブ連合会 総務部長
委 員	渡邊 浩文	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 准教授

(敬称略、50 音順)

ワーキンググループ

青木 智子	【会津若松市】認知症対応型通所介護事業所 認知症専門デイサービス OASIS 管理者	検討委員兼務
齋藤 仁	【会津若松市】地域密着型通所介護事業所 こころのさとデイサービスセンター 管理者	
君島 弘美	【会津若松市】居宅介護支援事業所 医療生協在宅介護支援センター 管理者	
佐々木 育代	【福井市】認知症対応型通所介護事業所 デイサービスレインボー灯明寺 施設長	
梅林 栄見	【福井市】地域密着型通所介護事業所 県民せいきょう宝永きらめきデイサービス 管理者	
石倉 智江	【福井市】居宅介護支援事業所 ケア・フレンズ居宅介護支援事業所 管理者	検討委員兼務
濱野 律哉	【豊島区】認知症対応型通所介護事業所 養浩荘高齢者在宅サービスセンターいけよんの郷 園長	
高島 梨菜	【豊島区】地域密着型通所介護事業所 有限会社ふくろう介護サービス 管理者	検討委員兼務
旭 晋史	【板橋区】居宅介護支援事業所 株式会社アサヒソーシャルワークス 代表	
佐藤 信人	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長	検討委員兼務
渡邊 浩文	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 准教授	検討委員兼務

(敬称略)

【オブザーバー】

厚生労働省老健局総務課 認知症施策推進室 室長補佐 余語 卓人
厚生労働省老健局総務課 認知症施策推進室 認知症施策推進係長 近藤 琢磨

【事務局】

認知症介護研究・研修東京センター	副 センター 長	佐藤 信人
認知症介護研究・研修東京センター	研究企画主幹	佐々木 幸
認知症介護研究・研修東京センター	研究企画主幹	内藤 典子
認知症介護研究・研修東京センター	研 修 主 幹	小谷 恵子
認知症介護研究・研修東京センター	研究・研修事務	翠川 沙織
認知症介護研究・研修東京センター	研究・研修事務	田坂 ひとみ

「認知症デイ」の強みを地域で発揮するために

平成 29 年度老健事業 報告概要

平成 30 年 3 月

発行 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

住所 東京都杉並区高井戸西 1-12-1

電話 03-3334-2173（代表）

禁無断転載